

平成27年度 子ども育成学部

# 自己点検評価報告書

1. 概要
2. 現況
3. 教育課程
4. 実習
5. 学生生活支援
6. キャリア(資格取得・就職)支援
7. 地域交流・貢献活動
8. 後援会・家庭連絡
9. 研究活動
10. その他
11. 将来構想

平成28年3月

富山国際大学 子ども育成学部

# 1. 概 要

## 1. 実績と現状

### (1) 学部の理念・目標の達成

富山国際大学は、「時代の潮流に対応できる健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会及び地域社会の発展に寄与する」ことを基本理念としている。平成 21 年 4 月呉羽キャンパスに、少子高齢化時代における地域課題の解決に取り組む人材の育成を通して、地域社会に貢献することを目的として、子ども育成学部を設置した。

子ども育成学部が目指す人材像は、教育的愛情と子どもの福祉(幸福)への献身、専門的な知識・技術と豊かな人間性を併せ持ち、一人ひとりの子どもの発達を理解し、主体的な活動を促す環境を整えて、子どもの生活・学習・発達を支援していく、実践的能力を備えた資質の高い子ども育成の専門家である。

学部開設 7 年目の平成 27 年度は、学生総数 365 名（定員充足率 110.6%）となり、初めて総定員を充足した。平成 28 年 3 月末には、第 1～3 期生に続いて第 4 期生 80 名が就職・進学など学部での学びを生かして、それぞれの新しい人生を歩み始め、卒業生累計は 297 名となった。

卒業生の成果は、県内の教育・保育・福祉関係者の注目を集め、高等学校・受験生・保護者の期待と評価も次第に高まっている。平成 28 年度入試志願者数は、230 名（定員 80 名の 2.88 倍）となり、普通科単独校からの志願も増加して、受験生の質も向上した。3 年次編入生も 4 名（定員充足率 80%）であった。富山短大福祉学科からの編入生が 1 名おり、これからも学園内連携を推進していきたい。

### (2) 教育課程・授業の展開及び教員組織

平成 27 年度は、学部第 2 期運営計画による新教育課程の 2 年度であり、教養科目の科目区分再編成の下で、2 年次「キャリア支援講座 I」の選択教科化などを実施した。各学年各分野の授業は、教育課程表に沿って概ね順調に開講された。

平成 26 年 12 月の文部科学省教職課程認定大学現地調査におけるシラバスなど一部に改善要請について検討を重ね、学則の一部改正に繋げることができた。

教員組織については専任教員が 19 名体制、呉羽キャンパス事務室事務長の異動など事務組織も変化した。教育・保育・福祉の教員が揃った中で、工夫改善された 3 分野の教育が行われた。

また、学生による授業アンケートは、例年どおり前期・後期の 2 回実施し、各教員の授業改善に生かしてきた。幼稚園・小学校教員免許取得希望者を対象にした「教職課程履修カルテ」及び「チェックリスト」を活用した、教職を目指す学生への指導も実施した。各分野の学外実習の事前・事後指導と実習報告会、卒業研究の中間発表と卒業研究発表会なども、それぞれ改善・充実を図ってきた。

### (3) 学生生活支援・家庭との連絡

学生数の増加に伴う校舎等施設利用のあり方など、学生生活をめぐる要望に応え、キャンパスアメニティを向上させるため、学生代表との懇談会や学友会（全員加入制）との連携にも引き続き努めた。

平成 26 年度の文科省「私立大学教育研究活性化設備整備費補助金」により、模擬保育室環境整備（2 階小児保健実習室）及び実物投影機・ブルーレイプレーヤーなど各教室の視聴覚機材整備に続いて、27 年度も同補助金 15,977 千円により、E 棟 406 室をアクティブラーニング実践型講義室への改善を行った。

個別的な学生指導では、適応支援チームを中心に、ゼミ担任・科目担当をはじめカウンセラーなどとも連携しながら、相談支援に努めた。家庭に向けた学部通信「保護者の皆様へ」（第 13 報・第 14 報）の配布、年 2 回の保護者相談会のほか、学生生活や進路についても、適宜個別に家庭（保護者）との連絡を行い、問題が複雑・重篤なケースには、保護者来校による懇談・面接指導を行った。

また、富山国際大学同窓会「蒼昊会」の子ども育成学部支部の第 3 回ホームカミングデーにも多くの同窓生が参加した。第 4 回卒業研究発表会当日に、新規に「みんなで語る会」を実施し、同窓生と 3・4 年生が語り合った。小学校教育研究会の活動は活発であったが、保育分野、福祉分野での活動は在学生のみに留まっている。

### (4) キャリア支援

キャリア支援については、平成 26 年度に引き続い「小学校教員採用 10 名、公立保育士採用 10 名、社会福祉士国家試験合格 10 名」を目標に、キャリア支援入門講座～支援講座を実施し、キャリア支援担当参事・事務室・分野担当教員・ゼミ担任の連携などにより、強化・充実を図った。

最終的には、卒業生総数 80 名に対して「小学校教員試験合格 16 名（既卒者 7 含む）、公立保育士採用 13 名（既卒者 2 含む）、社会福祉士国家試験合格 8 名」の成果を上げることができた。なお、臨時採用も含めた分野別進路については、「小学校分野 13 名（26 年度 15）、保育・幼児教育分野 30 名（同 26）、社会福祉分野 13 名（同 21）、教育系大学院進学 3 名（同 1）、公務・警察 0 名（同 1）、企業 17 名（同 10）、その他 3 名（同 3）であり、卒業生の約 7 割が専門分野または関連分野に進んだことになる。また、社会福祉士国家試験の合格率は 36.4%（現役合格率は 57.1% で全国第 53 位、全国の平均合格率は 26.2%）の偉業を達成した。

### (5) 研究

教員の研究活動では、文科省学術研究助成基金（科研費）助成研究 5 件（前年度 3）、（財）富山第一銀行奨学財団研究助成 4 件（同 3）などの外部資金を活用した研究に取り組むとともに、研究紀要「子ども育成学部紀要」第 7 卷 17 件（同 12）を発刊した。また、学内教員相互の研究交流のための研究交流サロンも 1 回（同 1）開催した。

#### (6) 地域交流・貢献活動

初年次に開設した「子ども育成研究交流センター」の活動として、子ども育成に関するセミナー及びフォーラムの開催（各1回）とニュースレター「子ども育成研究」の発行（2回）、高校及び地域団体等からの要請に対応した出講プログラム10件（同10）、教育・福祉・保育現場や団体・行政などからの要請に対応した各種審議会・委員会の委員、講演会・研修会講師、現場実践研究への支援活動など、多様な地域貢献に取り組んだ。

#### (7) 大学改革・教育改革への取組み

全学的な取り組みの中で、文科省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC十事業）の参加校として採択されたことに伴い、本学が申請していた「地域課題探求型学習を核としたとやま地域創生人材育成プログラム」として平成31年度までの5年間、「地（知）の拠点大学」として認定された。

学部運営体制としては、学部連絡調整会議の開催（9回）及び学部運営委員会の開催（7回）をはじめ各委員会の開催を通して、教職員の目的と情報の共有に努め、教育指導・実習指導・学生指導など学部運営の充実を図った。

今後も、学部自身の責任と自主的な改革により、地域と時代のニーズに対応した教育・研究・社会貢献活動を展開していく必要がある。

## 2. 課題

#### (1) 第5期生の高い就職・進学実績の実現

第1～4期生の就職・進学実績は、関係者の間で注目・評価されたとはいえ、初期的成果に安住しているわけにはいかない。第5期生においては、是非、小学校、保育・幼児教育、社会福祉の各分野で、目標をより高く掲げて、過去4年間の水準を上回る成果を目指していかなければならない。社会福祉士国家試験で、既卒者の合格0であったことから、既卒者への支援に取り組まなければならない。

#### (2) 学部総定員（収容定員）の確保に対応した教育の質の向上

平成27年度に統いて28年度においても、学生定員の確保（総定員の充足）を維持することができることとなった。今後は、定員を大幅に上回って入学した第6期生への教育の質の向上に向けたきめの細かい指導、高いレベルと考えられている第7・8期生に対する教育・指導の充実など教育の質のより一層の向上が課題である。

#### (3) 再編された教員組織・事務組織の活動充実

平成28年度当初には、新規採用教員2名を含む専任教員19名の体制になる。呉羽キャンパス事務室事務長の異動など事務組織も変化する。全ての学年で定員を超える。史上最大の在籍者を擁する中で、開設時以来の実績を適切に継承・発展させて、学部としての教育力・研究力・社会貢献力をさらに高めていかなければならない。

## 2. 現況

### 1. 学生の状況（平成 28 年 3 月 31 日現在）

	在籍者数	内訳(1) 男：女	内訳(2) 出身県								
			富山	新潟	石川	福井	岐阜	愛知	山形	茨城	神奈川
1年生(定員 80 名)	96名	25 : 71	90	2	2		1			1	
2年生(定員 80 名)	98名	27 : 71	92	2	1	1			2		
3年生(定員 85 名)	89名	19 : 70	83		1	1	2	1			1
4年生(定員 85 名)	81名	21 : 60	73	7	1						
計(定員 330 名)	364名	92 : 272	338	11	5	2	3	1	2	1	1

(参考) 平成 24～28 年度入試の状況

	募集人員	志願者	合格者	入学者	備考
28 年度入試	80 名	229	188	89	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	6	4	4	3 年次編入学
27 年度入試	80 名	259	174	94	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	8	6	6	3 年次編入学
26 年度入試	80 名	248	188	101	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	4	4	4	3 年次編入学
25 年度入試	80 名	236	169	85	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	1	1	1	3 年次編入学
24 年度入試	80 名	155	128	78	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	1	1	1	3 年次編入学

### 2. 教員組織（平成 27 年度）

区分	人数	内訳
子ども育成学部専任教員	19 名	教授 9 准教授 7 講師 3
学園内教員（兼担・兼任）	19 名	現代社会学部 5 富山短大 14
学園外教員（非常勤講師）	32 名	
計	70 名	

### 3. 呉羽キャンパス事務室（平成 27 年度）

区分	人数	内訳
専任事務職員	3 名	事務長 1 主査 1 主事 1
兼任職員（短大）	2 名	図書館 1 健康管理センター 1
契約職員	2 名	参事（キャリア支援担当）1 職員 1
計	7 名	

### 3. 教育課程

#### 1. 実績と現状

##### (1) 新規の取り組み

- ① 全学 FD・SD 研修会における研修報告会の実施（教員 1 名、職員 1 名からの報告）

##### (2) 教育指導

- ① 授業科目の履修指導・前後期末試験・再試験の実施
- ② 教養演習：(1・2 年共通) 初年次教育（平成 27 年 4 月）リテラシーガイダンス（平成 27 年 4～5 月）、ゼミ別活動合同発表会（平成 27 年 7 月）、大学祭展示発表（平成 27 年 10 月）、個人研究発表（平成 27 年 10 月～平成 28 年 1 月）
- ③ 卒業研究：(3 年) 大学祭卒業研究ゼミ紹介（平成 27 年 10 月）  
(4 年) 中間発表（平成 27 年 5/18～5/28）、卒業研究発表会（平成 28 年 2/13）
- ④ 地域社会参加活動：(1 年) 20 時間以上の地域活動体験、活動報告会、活動報告集
- ⑤ 富山県私学祭出品：24 点（1、2 年）出品（平成 27 年 11 月：富山県高岡文化ホール）
- ⑥ 学外施設を使用した授業：

授業科目	開講時期	使用施設	実施日
日本の動き	1年前期	北日本新聞社(越中座)	27.5/14(木)
図画工作	1年前期	射水市大島絵本館	27.6/25(木)、7/1(水)、7/2(木)
地域社会参加活動	1年通年	県総合運動公園陸上競技場(障害者スポーツ大会)	27.5/17(日)
子ども文化	1年後期	富山県こどもみらい館	27.10/21(水)
自然体験活動	1年通年	富山市ファミリーパーク	27.6/24(水)
		呉羽青少年自然の家	27.10/28(水)、11/18(水)
		富山県中央植物園	27.12/2(水)、12/9(水)
体育	2年後期	富山県総合運動公園陸上競技場	27.8/20(木)、8/21(金)
		富山市民プール	27.8/26(水)、8/31(月)
図画工作科教育法	2年後期	富山県立近代美術館	28.1/30(土)
子ども活動創造演習	3年前期	富山短期大学附属みどり野幼稚園	27.7/4(土)
保育内容(造形表現)	3年後期	富山県立近代美術館	28.1/28(木)
富山の保育・教育特別 講義Ⅱ	4年後期	富山市奥田小学校	27.10/3(土)
		富山市民俗民芸村	27.10/24(土)
		富山県内の小学校 9 校	27.11/5(木)
更生保護制度論	4年前期	富山刑務所	27.5/27(水)

- ⑦ 授業改善の取組み：授業アンケートの実施（前・後期末 2 回）

- ⑧ 平成 27 年度「入学前オリエンテーション」の実施（平成 27 年 12 月 呉羽キャンパス）  
[推薦入学予定者 32 名、3 年次編入生 4 名]

## 2. 課題

### (1) 教養演習の運営方法、活動内容

富山国際大学のアクションプランのなかで検討された自校教育については、平成 27 年度 4 月の教養演習において、「【初年次教育】学長特別講義「富山国際大学の歴史と基本理念」として実施した。

ゼミ配属についても、前年度同様に病気に罹患したり欠席したりしがちである要配慮学生を、一部ゼミに偏らないよう注意するとともに、教員のその他の負担のバランスも配慮した。

ゼミ別活動合同発表会については、教員が積極的に運営に関わるよう改善を行った。特に大学祭でのポスター発表については、感想コメントを参考に、今年度の反省点を教養演習WGで議論した。ゼミ別の共同研究に入る前に、【リテラシーガイダンス】を合同化して動機づけと研究の方法論の指導を強化する具体的な改善案を取りまとめた。

### (2) 卒業研究の運営方法

基本的には、平成 26 年度のスケジュールを踏襲して、3・4 年生が中間発表、卒業研究発表会に参加した。自分たちの興味関心の高いテーマに基づいて、学生たちが発表を行い、または見聞きした内容を学びにつなげていく様子が見られる一方、実習や就職活動で忙しい者は、本格的に卒業研究に取りかかるのが遅い場合があるため、卒業発表会や要旨の完成度にばらつきが感じられた。

今年度も、卒業研究発表会時、学生は関心のある会場へ自由に移動することを可能としたが、実際に全ての学生が部屋を移動したということではなく、移動するか否かについては、学生の所属ゼミごとに異なる様子が見られた。望ましいのは、積極的な移動の有無を含め、発表会参加にあたって、より充実した指導を各ゼミ担当教員が行っていくことであろう。

### (3) 海外への研修を伴う授業科目が抱える課題と今後の展開

平成 26 年度同様に、平成 27 年度の「異文化研修」(1・2 年次開講、2 単位) は、フランスならびに欧州における政情不安の影響を考慮し、派遣中止となった。

来年度は、新たにカナダ西部のレスブリッジ大学との協定により、研修実施の予定である。

留学に関しては、今年度 1 年生 1 名、2 年生 2 名、計 3 名が春季休業期間中、オーストラリアのサザンクロス大学でプログラムに参加した。

これまでオーストラリアに 2 回、計 4 名が同様の留学を実施してきたが、久しぶりの参加であり、いずれも TOEIC のオンライン講座がきっかけとなって、留学への意欲を高めることとなったと思われる。

## 4. 実習

### 1. 実績と現状

#### (1) 実習の取り組み状況

- ① 「幼稚園教育実習Ⅰ」：付属みどり野幼稚園など5園 84名（H27.11）、報告会（H27.12）
- ② 「幼稚園教育実習Ⅱ」：22カ所 31名（H 27.9）、報告会（H27.10）
- ③ 「保育所実習Ⅰ」 60カ所 60名（H 27.9）、報告会（H27.12）
- ④ 「保育所実習Ⅱ」 47カ所 47名（H 27.6）、報告会（H27.9）
- ⑤ 「施設実習Ⅰ」：22カ所 63名（H 27.11～12）、報告会（H28.1）
- ⑥ 「施設実習Ⅱ」：5カ所 5名（H 27.6）、報告会（H27.9）
- ⑦ 「小学校教育実習」：42カ所 48名（H 27.9）、報告会（H 28.1）
- ⑧ 「介護等体験」（小学校教員免許関連）：社会福祉施設 48ヶ所（5日間）+特別支援学校 10カ所（2日間） 74名（H 27.6～H28.1）、報告会（H28.2）  
※補足：平成28年度より介護等体験の履修を2年次から3年次へ変更することになった。これにより卒業後の進路について熟慮する期間が広がることになった。
- ⑨ 「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」：15カ所 27名（H28.2～3）
- ⑩ 「スクールソーシャルワーク実習」：中学校 2カ所・生活保護受給世帯 4カ所 4名（H27.5～12）、報告会（H28.2）
- ⑪ 「富山に学ぶインターンシップ」：19カ所 21名（H27.6～12）、報告会（H28.1）

#### (2) 実習履修要件抵触者への対応

- ・実習指導センターコンferenceを9月、3月に開催し、実習履修要件抵触者の検討を行った。その後、面接・指導等の対応状況を確認した。履修延期者は以下のとおりである。  
幼稚園教育実習Ⅰ（2名）、幼稚園教育実習Ⅱ（1名）、保育所実習Ⅰ（3名）、相談援助実習Ⅰ・Ⅱ（2名）、介護等体験（1名）
- ・各実習委員会において、実習履修要件に抵触しないが、個別対応を要する事例（健康状態で配慮を要する学生、進路の迷いや目的意識の希薄な学生等）が複数あった。

## 2. 課題

#### (1) 履修延期者等への対応

実習履修要件に抵触し履修延期となっている学生への対応の検討。また個別対応が必要な学生への指導。

#### (2) 資格取得への明確な意思確認

複数資格取得希望者のなかで、資格取得に明確な意思・目的を持てぬまま実習に臨む学生に対する指導のあり方等の検討。また、実習時期における就職活動等の重なりへの対応。

#### (3) 実習指導センターの充実

5種類の資格取得のための実習数は、年間11実習に及ぶ。実習に関する様々な手続き等を行う実習担当職員の配置を強く希望する。

## 5. 学生活支援

### 1. 実績と現状

#### (1) 新規の取り組み

- ①講義室等の整備 : E 406 室整備 (A V系機器一式)  
天吊液晶プロジェクター1台、65型可搬式電子黒板2台、  
80型電動スクリーン1台、リモートカメラ2台、  
カメラコントローラーシステム1台、  
近距離無線LAN アクセスポイント3台、講義者用パソコン1台、  
SDIスイッチャー1台、HDMI入出力変換器1台、  
SDI変換器3台
- ②大学祭の模擬店をめぐる富山短期大学からの申し入れに関する学部内・大学間の調整  
③新入生歓迎ライブ (H27.5)  
④学友会による大学周辺の地域清掃活動(通年)  
⑤富山県警察本部交通企画課による自転車通学の交通安全講習会 (H27.9)  
⑥富山県警察本部交通企画課による交通安全学生ボランティア事業(通年)  
⑦富山県安全なまちづくり推進本部と学友会による学生防犯ボランティア活動(8~2月)  
⑧「戦後70年北方領土問題を考える集い」(文科省後援)への学生派遣( (H27.9)

#### (2) 現状 (①=1年生、②=2年生、③=3年生、④=4年生)

1. 学部交流会 : ①②③④ アルビス小杉総合体育センター (H27.5)
2. オリエンテーション交流合宿 : ①② 砺波青少年自然の家、砺波チューリップ公園 (H27.5)
3. スポーツ文化交流会: ①②③④ 東黒牧キャンパス(運動系・文化系)、  
呉羽キャンパス (清掃活動) (H27.6)
4. 学友会の運営支援 : ①②③④ 総会 (H27.4)、七夕コンサート : 地元自治会の招待交  
流 (H27.7)、オープンキャンパス (H27.7・8)、  
クリスマス会 (H27.12)、音茶会 (H28.3)
5. 大学祭実行委員会の運営支援
6. 大学祭(第7回仁友祭)の開催 (H27.10) : ①② ポスター発表 : 教養演習  
テーマ: 「伝えたい それぞれの想い」 ③卒業研究ゼミ紹介 ④

卒業研究紹介

①②③④ 各実習紹介  
①②③④ 各サークル企画イベント  
①②③ 模擬店
7. クラブ・サークル活動への支援 : ①②③④ 運動9・文化18 計27サークル  
(運動系) バドミントン バスケットボール バレーボール 体操競技  
テニス フットサル 女子軟式野球 ビーチボール SPORTY

(文化系) アカペラ ダンス 美術 演劇 JAZZ 吹奏楽部 音楽 イラスト 合唱  
東北震災復興支援サークルへそ 天文 小学校教育研究会 SSW研究会  
保育サークル～にこにこ～ Tuins English Club  
社会福祉サークルはぴ☆まる 学生団体 MUL 書道サークル (H28.3現在)

8. 「夢への架け橋事業」への応募・実施：①②③④ 1件  
(イ) 水上ゼミ：限界集落支援事業(4年目)(助成額：130,000円)
9. 富山国際学園関連施設(みどり野幼稚園、にながわ保育園)での継続的ボランティア活動の実施：みどり野サポーター③12名、④5名 計77回、にながわサポーター①35名、③1名 計33回
10. 学生の要望をめぐる懇談会(学友会と教職員)：①②③④ 2回実施(H27.7、H27.12)
11. 富山市呉羽消防署署員による救命救急講習会：①② H27.8 実施
12. カウンセリング及び適応困難学生のための適応支援チーム：隨時実施
13. 交通安全講習会：①②③④ (H27.8)

## 2. 課題

### (1) 学生駐車場不足の問題

本年度までは、1年生を除き2年生以上は学生駐車場の駐車許可証を希望する学生の全員が許可証の発行を受けることができた。しかし入学生数の大幅な定員超過が続いたため、来年度の募集を本年度末に行った結果、初めて1・2年生の全員が許可証を受けられなくなつた。本学部生の福利厚生上の大きな変化であり、既に教授会等で対応が議論されているが、学園本部を含めて呉羽キャンパス整備等検討委員会など学園全体で調整が進む必要がある。

### (2) 大学祭の飲食模擬店をめぐる衛生問題等

本年度初めて短大から飲食模擬店の屋外調理を禁止するよう申し入れがあり、ひと月に渡る学部内の教員間・学生間の調整を経て、衛生管理の新たな徹底対策を講ずることにより屋外調理を認める方向に落着した。ただ、事後の原状復帰の他、衛生問題以外に安全問題も考慮して今後どうするかさらに検討・調整が必要となることも考えなければならない。

### (3) 学友会による大学周辺の地域清掃活動

近隣住民からの学園に対する一昨年度の苦情に対して、大学は地域清掃の対応をとっていたが、再度の申し入れに対して今年度から学園本部の決定により、高校・短大・大学で分担することになった。大学：5、7、11、1月、短大：3、6、10、12月、高校：4、8、9、2月、各月3回、計12回ずつ。学友会役員で対応したが、今後は一般学生の意識を高める体制も必要である。

### (4) 学友会総会の改善

4月の学部交流会の際にに行っている学友会総会において、学友会執行部への参加協力についての説明が学友会加入の説明と混同されている節があった。学友会は全員加入の自治組織であることを徹底する必要があり、同窓会の学部交流会への支援等についても周知するなど、学生と同窓会との関係を強化する工夫も模索する必要がある。

## 6. キャリア（資格取得・就職）支援

### 1. 実績と現状

#### (1) キャリア支援計画

1年次から4年次までのキャリア関連講座を分野（小学校、幼稚園・保育、社会福祉、一般企業）ごとに立案・実施

- ① キャリア支援講座Ⅰ：今年度、新たに正規科目として追加（2年・通年）。昨年度より単位化したキャリア入門講座（1年・後期）は、現場の専門家による特別講義を開催（小学校分野(1/18)・保育分野(12/14)・社会福祉分野(12/21)）。
- ② キャリア支援講座：キャリア支援講座Ⅱ（3年・通年）、キャリア支援講座Ⅲ（4年・通年）を時間割に組み込んだ（H27.4～H28.1）（分野：小学校、幼稚園・保育所、社会福祉士）。一般企業は単位認定しないが、適時情報提供に努めた。

#### (2) 就職状況の周知

学生には就職活動状況を、教員にはゼミ生の就職状況をその都度キャリア支援センターに報告することとし、毎月教授会等で就職状況を全教員に周知した。

#### (3) 資格・免許希望調査

キャリア支援講座Ⅰの分野希望及び資格・免許履修の確認をした（H28.2）。

#### (4) 公務員・教員採用試験対策講座：呉羽キャンパスにて6日間実施（H28.3）

#### (5) 模擬試験の実施：

小学校教諭希望3・4年生対象（一般教養・教職教養・専門教養 H27.4・6・11）  
幼稚園教諭・保育士希望3・4年生対象（一般教養・教職教養・専門教養 H27.4・5）  
社会福祉士希望3・4年生対象（中央法規 H27.8、日本社会福祉士会 H27.10、ウィネット H27.12）

#### (6) 小学校教員養成と就職に関する懇談会

①日時：平成28年3月4日（金）10：20～11：50

②場所：富山国際大学呉羽キャンパスE棟会議室

③参加者：富山県西部教育事務所長、富山県東部教育事務所長、富山県小学校教育研究会長、富山市立山室中部小学校長、射水市立新湊小学校長、富山国際学園学事顧問、富山国際大学子ども育成学部教員（計12名出席）

#### (7) 各分野の採用状況・採用試験問題等の整理

今年度の小学校教員・幼稚園教諭・保育士・社会福祉士の採用状況及び受験状況を各市町・事業所ごとにまとめ、面接・筆記試験等の内容を整理した。

#### (8) 学内合同企業説明会への参加

東黒牧キャンパスで行われた「学内合同企業説明会」に、一般企業を希望する学生10名が参加した。（H28.3/2、3/7）

#### (9) 自主研修

将来の進路に備え自主的に研修を行う「自主研修」の学年別内訳は、4年生（7名）、3年生（10名）、2年生（3名）、分野別では、幼保分野（9名）、福祉分野（11名）であった。

#### (10) その他

小学校で理科実験の準備や後片付け等を行う「観察実験アシスタント」に、4年生（2名）、3年生（5名）、2年生（6名）、1年生（13名）の計26名が登録、のべ28名が勤務した。

### 2. 課題

平成29年度正規科目となるキャリア支援講座Ⅲの講座内容及び担当教員の検討を要する。また、専門分野毎の懇談会開催は、継続開催を視野に入れ予算請求する必要性もある。

## 平成 27 年度卒業生（80 名）の進路状況

（平成 28 年 3 月 31 日現在）

小学校教育分野 13 小学校教諭・講師	保育・幼児教育分野 30 保育士・幼稚園教諭	
富山県公立学校教員（小学校）5 新潟県公立学校教員（小学校）2	富山市保育士 4 射水市保育士 2 南砺市保育士 2 黒部市保育士 魚津市保育士 氷見市保育士 砺波市保育士 長岡市保育士 富山市保育士（臨時） 高岡市保育士（臨時） 村上市保育士（臨時） 妙高市保育士（臨時）	同朋認定こども園 かたかご子ども園 いづみ幼稚園 2 高原福祉会 2 高陵児童福祉会 2 ながわ保育園 いちい保育園 わかくさ福祉会 なでしこ保育園 かたかご保育園
富山県公立学校講師（小学校）6		
社会福祉分野 13 社会福祉士・相談員等		
[市町村] 富山市社会福祉士		
[社会福祉協議会] 富山県社会福祉協議会		
[障害者施設・事業] たかおか万葉福祉会 2 セーナー苑 いみず苑		
[高齢者施設・事業] 戸出福祉会 2 喜寿苑 ソレイユ 城南会 正栄産業 苗場福祉会		
	企 業 17	
	中田図書販売 2 富山第一銀行 北日本物産 高志インテック 生活協同組合 CO-OP とやま 富山県生活協同組合 東洋ガスマーター 中央歯科医院 トヨタレンタリース富山 オリバー ワイディシステム アナダ薬品	富木医療器 エージングループ ファミリー ニラックス
		進 学 6
		上越教育大学大学院 3 北陸ビジネス福祉専門学校 富山情報ビジネス専門学校 Lexis Korea（韓国）

### ■主な試験等の結果（既卒者含む）

富山県公立学校教員（小学校）	11名合格（うち既卒者 5 名）
新潟県公立学校教員（小学校）	4名合格（うち既卒者 2 名）
石川県公立学校教員（小学校）	1名合格
富山県内市町村保育士	14名合格（うち既卒者 2 名）
新潟県内市町村保育士	1名合格

### ■複数免許・資格の取得

（1）1人当たりの法定免許・資格（小・幼・保・社（受験資格））取得数：

4種類=1名 3種類=26名 2種類=37名 1種類=15名 無=1名

（2）資格・免許取得のべ数：

* 小学校教諭一種免許：	45名 (56.3%)
* 幼稚園教諭一種免許：	59名 (73.8%)
* 保育士資格：	52名 (65.0%)
* 社会福祉士（国家試験受験資格）：	15名 (18.8%)
* 社会福祉主任用資格：	80名 (100%)
* スクールソーシャルワーク教育課程修了：	4名 (5.0%)
	うち認定者 2 名

## 7. 地域交流・貢献活動

### 1. 実績と現状

#### (1) 第7回子ども育成フォーラムの開催

- ・テーマ：「放課後の子どもたちを健全に育てるために」
- ・趣旨：今日の日本では少子化が一段と進み、共稼ぎ世帯が増えている。放課後の子どもたちが健全に育つために何が求められているのか。第7回フォーラムでは、少子化・放課後の児童保育の海外事情に詳しい専門家を招き、諸外国の先進的な取り組みと理念を学び、わが国の現状を認識すると共に、家庭、地域、施設、行政が一体となって解決に向け広い視野に立つ見識を得ることを目指した。
- ・開催日時：平成27年6月28日（日）午後1時30分～4時10分
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 701-704号室
- ・参加者数：約120名（教育・福祉・保育関係者、一般市民、学生など）

#### (2) 第7回公開セミナーの開催

- ・テーマ：「発達障害のある子どもたちを巡る幼保・小の現状と連携・接続の課題」
- ・趣旨：近年、小学校低学年の学級運営が課題となっていることから本学では、4回子ども育成フォーラムで「幼保小の連携・接続～確かな保育・教育の実現を目指して～」を取り上げ、第5回子ども育成フォーラムでは、「共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進」を取り上げた。今回の公開セミナーでは、配慮を要する子どもへの対応等について学ぶ。県内は「どのような現状」であり、「どのような課題」があるのかを、県機関からの基調報告、幼稚園・保育所、小学校、子ども発達支援センターの報告を基に語り合う。そして、県内の現状と課題について理解を深め、明日の活動に生かす機会となることを目指した。
- ・開催日時：平成27年11月28日（土）午後1時30分～4時15分
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 701-704号室
- ・参加者数：約160名（教育・福祉・保育関係者、一般市民、学生など）

#### (3) 平成27年度三大学連携教員研修連続講座

主 催：富山国際大学子ども育成学部 富山大学大学院人間発達科学研究所  
上越教育大学教職大学院

開催日時：平成27年7月～8月（計5回）

開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 富山大学五福キャンパス 黒部市立宇奈月小学校  
氷見市教育総合センター

本学部からは、別紙のように、水上義行教授と辻井満雄教授が各1回、講座を担当した。

#### (4) 高大連携（平成27年4月～28年3月）

県内、県外の高校からの要望により出向いたり、キャンパスで授業見学を行ったりした。

(進路系統別ガイダンス一覧)

No	月日	担当者	事業	内容・テーマ等	会場／高校	対象
1	5月29日	辻井満雄 教授	校内説明会	教育系（小）	富山西高等学校	2年生 1コマ
2	6月17日	仲井文之 教授	校内説明会	教育系（小）	新湊高等学校	2年生 2コマ
3	6月22日	大藪敏宏 准教授	校内説明会	教育系（小）	雄山高等学校	2年生 1コマ
4	7月6日	本江理子 講師	学校見学	保育系（幼保）	呉羽C/富山西高校	1年生 1コマ
5	7月7日	原 稔 教授	校内説明会	教育系（小）	高岡龍谷高等学校	2年生 1コマ
6	7月10日	堀江英一 准教授	校内説明会	教育系（小）	高岡第一高等学校	1年生 2コマ
7	7月10日	辻井満雄 教授	校内説明会	教育系（小）	石川県立門前高等学校	1・2年生 2コマ
8	7月13日	大藪敏宏 准教授	校内説明会	教育系（小）	遊學館高等学校	1年生 2コマ
9	8月26日	原 稔 教授	校内説明会	教育系（小）	新湊高等学校	1年生 2コマ
10	12月9日	堀江英一 准教授	校内説明会	教育学・模擬授業	富山いづみ高等学校	2年生 1コマ
11	3月11日	堀江英一 准教授	校内説明会	教育系（小）	高岡龍谷高等学校	1年生 2コマ

(5) 高校・地域出講プログラム（平成27年6月～2月）

4年制大学への進学に向けて、高校生及び教職員のモチベーションを高めること、また、地域の要望に応えることに貢献。高校では、授業で行われていない内容で、より高度でアカデミックな講義を高校生に触れさせる機会となっており、依頼校の要請に応じて行き広く教養を伝えることを旨としている。

高等学校及び地域への出講プログラムを以下のように実施した。

	日付	教員	テーマ	出講場所	対象
1	6月1日	村上 満 教授	”やさしい”福祉学のすすめ	八尾高等学校	1年生
2	6月2日	村上 満 教授	”やさしい”福祉学のすすめ	雄山高等学校	家庭クラブ
3	6月12日	仲井文之 教授	もう一度読みたい児童文学作品	上市高等学校	生徒40名
4	6月25日	彼谷 環 教授	「豊かさ」について	高岡高等学校	高教研公民部会
5	7月23日	竹田好美 講師	幼稚園・保育所・認定こども園の生活って	南砺福光高等学校	3年生と1・2年数名
6	11月12日	相山 馨 准教授	「認知症の方への地域の見守りの目」とは	富山市 婦中ふれあい館	民生委員、公民館長、区長、福祉推進員、ケアマネージャー、地域包括支援センター職員等
7	12月4日	水上義行 教授	小学校等の教育	水橋高等学校	2年生
8	12月11日	仲井文之 教授	小学校教育の魅力	八尾高等学校	1・2年生 40名
9	1月27日	村上 満 教授	地域・障害者福祉	となみ野高等学校	学生向け
10	2月29日	村上 満 教授	教職員メンタルヘルスとヘルスケア	水橋高等学校	教職員

#### (6) 平成 27 年度教員免許状更新講習

- ・募集期間：平成 27 年 6 月 19 日（金）～7 月 21 日（火）
- ・日 程：平成 27 年 8 月 19 日（水）・20 日（木）
- ・受講者数：50 名（幼稚園教諭免許 46 名・小学校教諭免許 3 名・中学校教諭免許状 1 名）
- ・認 定 者：50 名
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 401 室・406 室

2 日間とも必修領域で、「教職についての省察」「子どもの変化についての理解」「教育政策の動向についての理解」「学校の内外における連携協力についての理解」を講習した。

#### (7) 平成 27 年度 富山国際大学・富山短期大学 幼稚園教諭免許状特例講座

平成 27 年度より新たに、富山短期大学幼児教育学科との連携により開催。幼保連携型認定こども園に置かれる職である保育教諭となるには、原則として幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方を有する必要がある。富山県内の保育士のうち、相当数が保育士資格のみを有している現状があり、認定こども園の普及のために講座の開催が望まれてきた。

富山県厚生部児童青年家庭課、富山県教育委員会教職員課の理解と協力を得て開催し、県内初の通学制の講座となった。

開講講座、単位数、開講日、担当講師は以下の通り。受講者はほぼ全員全ての講座をセットで受講しており、現職の保育士を中心とした 52 名であった。

講座名	単位数(授業時間)	開講日	担当講師
保育内容指導法 及び教育方法・技術	2 単位 (90 分×15 回)	平成 27 年 8 月 8 日（土）	水上義行（富山国際大学）
		平成 27 年 8 月 9 日（日）	飯田 聰（富山短期大学）
		平成 27 年 8 月 22 日（土）	石倉卓子（富山国際大学）
		平成 27 年 8 月 23 日（日）	梅本 恵（富山短期大学）
教職の意義等	2 単位 (90 分×15 回)	平成 27 年 9 月 5 日（土）	辻井満雄（富山国際大学）
		平成 27 年 9 月 6 日（日）	宮田 徹（富山短期大学）
		平成 27 年 9 月 12 日（土）	
		平成 27 年 9 月 13 日（日）	
教育課程論	1 単位 (90 分×8 回)	平成 28 年 2 月 27 日（土）	石動瑞代（富山短期大学）
		平成 28 年 2 月 28 日（日）	吉田昌弘（富山国際大学）

## 2. 課題

#### (1) 第 7 回子ども育成フォーラム・第 7 回公開セミナー

テーマ設定、講師の人選等、外部行事の予定も調査した上で全てを早めに決定し、直接案内も含めた早期事前告知により、広範囲からの集客の確保に努める必要がある。

#### (2) 平成 27 年度教員免許状更新講習

平成 28 年度より、必修領域に加え選択必修領域が設定され、講習内容や担当者を見直した。例年定員を上回り、幼稚園教諭の受講が多いことから、選択必修領域は幼稚園教諭を対象とした講習内容を設定したが、受講者の動向をみて検討していく必要がある。

## 8. 後援会・家庭連絡

### 1. 実績と現状

#### (1) 後援会総会・個別相談会

H27. 6 後援会総会に合わせて個別相談会が実施され、相談希望者及び学部からの召喚者に対して、個別の相談会を実施し、ゼミ担任などが対応した。

#### (2) 大学祭・保護者懇談会

H27. 10 第 7 回大学祭初日に、保護者説明会を開催し、学部と学生の概況、就職動向などについて説明した。

説明会終了後、希望者及び学部からの召喚者に対して、個別の相談会を実施し、各ゼミ担任が対応した。

#### (3) 保護者あて「学生の皆さんのお概況について」の送付

H27. 5 に第 13 報、H27. 9 に第 14 報を送付して、学部の概況、各学年の学生の状況、家庭への要望事項などを記した資料を配布した。執筆は、学部長及び各学年演習担当者。

※別紙「第 13 報」及び「第 14 報」を参照

#### (4) その他家庭との連絡・保護者面談など

学業成績や学習態度、欠席多数などの問題、休学や退学、学外実習許可の履修要件に抵触する学生などの保護者について、適宜ゼミ担任または適応支援チームが個別面談の機会を持ち、家庭への状況説明と情報収集、連携協力依頼などを行った。

### 2. 課題

#### (1) 家庭との連絡・協力の一層の緊密化

現状では、問題発生への対処として個別相談を実施しているが、問題の予防的な意味からも、平常時からの家庭との連絡・協力をより緊密にしていく必要がある。

#### (2) 相談記録の集約・保存・引き継ぎ・活用

家庭との相談の記録、学生の状況記録などは、各ゼミ担任個人レベルでの整理・保存にとどまっており、記録の作成・引き継ぎなどについては、記録用の様式について、学部として一定の書式が確認されたが、完全なルール化と円滑な運営までには至っていない。

既存の「学生に関する調書」と一体化した上で、一括管理して、記録、保存、閲覧、引継ができるようにしていく必要がある。その際、既存の「教職カルテ」の改良と活用も含めて検討していく必要がある。

## 保護者の皆様へ 「学生の皆さんのお概況について」(第13報)

平成27年5月・子ども育成学部

### 1. はじめに

日頃のご理解ご支援、感謝申し上げます。今年は開学25周年を迎え、共存・共生の精神と知性を磨く教育をさらに推し進めてまいります。開設7年目の子ども育成学部は、7年間の入学者累計597名・卒業生総数217名、27年度定員充足率110.6%となっています。

6月の後援会総会・個別相談会のご案内に併せて、学部と学生の皆さんのお概況についてお知らせします。保護者の皆様方には、大学での学びと生活についてご理解いただき、ご家庭での懇談や指導などの参考にしていただければ幸いに存じます。

### 2. 学生・教職員の現況 (27年度始めの現況は、次のとおりです。よろしくお願ひいたします。)

- ・ 学生 1年生 96 2年生 99 3年生 89 4年生 81 合計 365名 (内訳) [男子 93 : 女子 272] [富山 339 : 新潟 11 : 福井 2 : 石川 5 : 岐阜 3 : 山形 2 : 愛知 1 : 茨城 1 : 神奈川 1]
- ・ 教員 専任 19(教授 9・准教授 7・講師 3)、学園内兼任 19、非常勤講師 32、合計 70名
- ・ 職員 専任事務 3、兼任事務 4、契約参事 1、派遣事務 1

### 3. 第3期卒業生(77名)の就職・進学状況 (H27.4.20現在) (2期生を上回る成果を挙げました。)

- ・ 就職率 100% 小学校教諭 15 (うち講師 10)、保育士/幼稚園教諭 26、社会福祉職 21、公務員 1、企業 10、大学院 1、専門学校等 3
- ・ 資格/免許 小学校教諭 45 幼稚園教諭 58 保育士 53 社会福祉主任用資格 77  
社会福祉士(受験資格 19・合格 12(合格率全国 17位)) スクールソーシャルワーカー 2

### 4. 平成27年度の新規の取組み

- ① 教養科目的充実、英語・国際関係科目や教員免許関係科目的充実強化に取組んでいます。
- ② 講義室に実物投影機・ブルーレイプレイヤーを整備しました。
- ③ 小児保健実習室に箱積木、ソフトファーミング等の教材を整備しました。
- ④ 授業・行事や学生生活の様子が分かるよう、大学のホームページへの掲載に取り組んでいます。

### 5. おわりに

子ども育成学部は、「明日を担う子どもの育成を通して、地域に貢献できる人材の養成」を目的として、学生の皆さん一人ひとりの夢「なりたい自分」を叶えるための教育・研究に努めています。これまで6年間の教育実績も、県内外から高く評価・注目されています。

今年度も、学生の皆さんの強い意志と自己向上努力を軸に、保護者の皆様方と共に歩んで参ります。今後ともご理解ご協力くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

(子ども育成学部長 辻井満雄)

#### \*個別懇談会についてのお知らせ

- ・ 6月27日(土)の後援会総会に先立ち、ゼミ担任との個別懇談会を開催します。懇談を希望される場合は、ご遠慮なくお申し込みください。
- ・ なお、ゼミ担任(学部長)から保護者の方に、ご来談くださるよう別途お願いする場合もあります。学業成績や学生生活、学外実習の履修などについてご相談申し上げたいと存じます。
- ・ その節には、万障繰り合わせてご来場くださいますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 1年生の概況について

### 「教養演習」(1年生)担当教員

はつらつとした面持ちで富山国際会議場での入学式に94名が臨んでから、2か月が経過しようとしています。少しづつ大学での学問と学生生活にも慣れ、明確な視点をもち物事に取り組む姿勢が見受けられるようになりました。

#### 1. 富山国際大学で学ぶために

- 4月当初のオリエンテーションでは、学部の教育理念・目標、年間計画、教育課程・学年暦・行事予定、資格・免許などの説明を行いました。学部長からは、未来の専門職として子どもたちの良きモデルとなる生き方を心がけるよう、強い要請がありました。
- 初年次教育として、学長特別講義『富山国際大学の歴史と基本理念』を実施しました。学生は、学園の理念「知性・教養・個性」と大学の基本理念「共存・共生」を理解し、本学学生としての自覚を高め、「大学で学ぶとは」という学びの本質論を学びました。

#### 2. 授業など学習面について

- 授業では、1時間90分、夕方6時まで、毎時間出席確認などにも慣れて来たようです。4月当初には、『教養演習ガイドブック』などを教材に、各ゼミにおいてノートのとり方やレポートの書き方などの具体論も指導しました。2年生の先輩の経験談とともに、高校との違いを乗り越える力となればと期待します。なお7月には、ゼミ毎に進めている共同研究の成果を発表する教養演習ゼミ別合同発表会を行う予定です。
- 8月上旬に期末試験、夏季休業は8月中旬～9月末となっていますのでご理解願います。

#### 3. 生活面について

- 各ゼミ室で教員や学生の交流機会を設け、新入生が大学生活に自然と馴染めるよう工夫しています。また、大学生活が順調に過ごせるよう、ゼミ担任・事務職員・健康管理センター・カウンセラーなどが連携しながら適応支援に努めています。
- 日々の授業への集中、規則正しい生活習慣と生活リズムの確立など、ご家庭でもご指導をお願いいたします。また、大学の意義を考え、アルバイト等に貴重な時間を過度に割かないようお願いいたします。

#### 4. 就職等キャリア支援について

- 今年も専門職求人は順調です。1年次後期には「キャリア入門講座」を必修の授業科目として開講します。小学校教諭、保育士、社会福祉士等の第一線の先生方をお招きして、教育・保育・福祉の現場の話を学生が直接聴く機会も設けます。

#### 5. 学校行事等について

- 5月1日(金)の午前中は学部の学友会総会ならびに1～4学年全員参加による学部交流会(ビーチボール大会)を実施、5月1日(金)・2日(土)は砺波青少年自然の家で1・2年生によるオリエンテーション交流合宿を行いました。親睦と交流を深めました。
- 保護者の皆様には、今後とも一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(「教養演習」1年生担当：相山・小林)

## 2年生の概況について

### 「教養演習」(2年生)担当教員

2年生に進級して後輩ができたことで、授業や課外活動等で頼もしく活動する姿が見られます。一方、後輩に助言することの難しさも同時に体験しているようです。このような経験を糧に、一人ひとり着実に成長していくことを願っています。

#### 1. 授業など学習面について

- ・ 2年次から、保育・教育・福祉分野の専門科目の授業や実習指導が本格的に始まりました。
- ・ 1・2年合同クラス「教養演習」では、後輩との学び合いの中で、改めて大学生活の基本を確認しました。今後は、7月のゼミ別活動合同発表会に向けて、ゼミごとにテーマを決めて調査・探求を行い、1年生をリードしながら研究成果をまとめ上げていきます。
- ・ 小学校教員免許取得希望者を対象として、「介護等体験」の事前指導を行っています。早い学生で6月から特別支援学校(2日間)や社会福祉施設(5日間)に出かけます。
- ・ 保育士資格希望者には、9月の学外実習「保育所実習Ⅰ」(0~2歳児)に向け、事前指導を行っています。また、11月の「施設実習Ⅰ」に向け、6月に児童福祉施設等を見学します。
- ・ 社会福祉士をめざす学生が「相談援助技術」を学ぶための演習も始まりました。具体的な援助場面を想定した実技指導で、専門的な技術とともにキャリア意識も深めていきます。

#### 2. 就職等キャリア支援について

- ・ 今年度、「キャリア支援講座Ⅰ」が正規科目（選択：通年2単位）となり、小学校、幼保・社会福祉の3分野に分かれ、各分野の仕事の内容や採用試験の概要等を学んでいます。なお、進路等でお悩みの場合は、早めにゼミ担任・キャリア担当者にご相談ください。

#### 3. 生活面について

- ・ 自家用車通学者には事故防止のための注意を喚起しております。学園駐車場での駐車マナーも含め、特に交通安全についてはご家庭でもご留意をお願いいたします。
- ・ 授業に欠席しがちな学生は、進路の迷いや友人関係の悩みを抱えている場合も多いようです。欠席回数が多いと実習の履修が許可されず（資格免許の取得が困難になる）、また、期末試験の受験資格を失う場合があります。ご家庭でのご支援もお願いいたします。
- ・ アルバイトをしている学生が多く、夜のアルバイトで翌日の授業への遅刻や居眠りなどが一部の学生に見られます。基本は「学業が最優先」ですので、夜遅くのアルバイトは控えるよう指導しています。ご家庭でも、実情把握と適切なご指導をお願いいたします。

#### 4. 学校行事について

- ・ 5月1日（金）・2日（土）のオリエンテーション交流合宿は、2年生の実行委員を中心に準備を進め、企画運営の経験を積む好機ともなりました。初日は全学年が参加した学友会総会とともにスポーツによる学部交流会も行われ、親睦と交流を深めました。

- 2年生は、実習などを通して卒業後の進路を真剣に考え、絞っていく学年でもあります。保護者の皆様には、一層のご理解ご支援をくださいますようお願い申し上げます。

(「教養演習」2年生担当：室林・石倉)

## 3年生の概況について

### 「卒業研究」(3年生) 担当教員

3年生となり、大学生活はすでに折り返しを過ぎました。卒業後の将来像が目の前に近づいてきたことで不安になっている姿も見られますが、先輩たちを見習い毎日地道な努力を続けてほしいものです。残りの学生生活が有意義なものとなるよう願っています。

#### 1. 学外実習について

- ・ 9月に、15日間の「小学校教育実習」または「幼稚園教育実習Ⅱ」が予定されています。
- ・ 小学校教育実習に向けては、主要教科の専任教員により授業「教科教育法」で、教材研究の基礎・基本や指導案作成、模擬授業の実施など、充実した指導が行われています。
- ・ 幼稚園教育実習Ⅱに向けては、内諾実習先を訪問し、園の教育目標や幼児の生活について学びつつ事前打ち合わせをし、15日間の実習で多くの学びが得られるよう着々と準備を進めています。指導案を作成しての教材研究や模擬保育で、実践力につけていく予定です。
- ・ 社会福祉分野では、3年次2~3月の「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」(25日間かつ180時間)のための演習などを積み重ねつつ、社会福祉士国家試験に向けた準備も着実にスタートさせています。
- ・ 「実際の子ども達の様子をもっと知りたい」と、「富山に学ぶインターンシップ」体験や「自主研修」制度などを活用して、小学校・幼稚園・保育所・施設などに出かける学生もあります。直接子どもと触れ合う中での体験は、学び深きものとなっています。
- ・ 充実した実習にするためには、日常の健康管理が大切です。学外のボランティア活動やアルバイトからの学びも大きなものですが、大学での効果的な学習が第一であることを忘れず、学業を最優先に考えて、生活リズムを整えていくことを奨励しています。

#### 2. 卒業研究について

- ・ 本学では3年次から4年次にかけて卒業研究を行うカリキュラムとなっており、4月よりそれぞれの専門分野に分かれて卒業論文作成の準備をスタートしました。なかなかテーマを絞りきれない学生が多いようですが、さまざまな先行研究を調べていくうちに、自ずと研究したい命題が出てくるはずです。4年次には卒業研究発表会が予定されています。
- ・ 5月には、4年生の中間ポスター発表があり、先輩たちが現地取材に出かけたり先行研究論文を読み込んだりした成果を見て、大いに刺激を受けています。

#### 3. キャリア支援について

- ・ 今年度前期は、火曜5限に「キャリア支援講座Ⅱ」が開講され、3年生は全員、小学校・社会福祉・保育の中で希望する分野を受講しています。企業や公務員などを目指す学生に關しても講座が開かれています。
- ・ 小学校分野では採用試験対策、幼保分野では公立・私立保育所を中心とした採用試験対策、社会福祉分野では公立・私立の事業所等を目指した採用試験対策を行っています。参加率が非常に良く、関心の高さと熱意が伝わってきます。

□ 最終学年につながる大事な学年です。ご家庭でも一層の励ましをお願い申し上げます。

(「卒業研究」3年生担当：彼谷・大平)

## 4年生の概況について

### 「卒業研究」「キャリア支援」(4年生) 担当教員

子ども育成の学びの積み上げの最終学年となる4年生は、学部のリーダーとして力を発揮するとともに、次のような様々な事柄に対応すべく、忙しくも充実した日々を送っています。

#### 1. 授業など学習面について

- 4年次は、一般に授業科目は少なめになってきますが、卒業に必要な科目・単位、資格免許に必要な科目・単位が満たされているかどうか、念のため十分な確認が必要です。
- 最後の学生生活、意欲的な学びで視野を広げ、人間的な成長を期待したいものです。

#### 2. 卒業研究について

- 3年次からの「卒業研究」については、学外実習や就職試験対策に取り組みながら、4年生全員が、来年1月の論文提出、2月の卒業研究発表会に照準を合わせて研究を進めています。追求したいテーマのためには、どのような研究方法が適切なのかを懸命に模索している様子です。
- 卒業研究の期間は2年間であり、かなり長期にわたるため、中間発表会を設けています。今年度は5/18（月）～5/28（木）にポスター発表を行いました。各自の今までの研究成果をA1判（A4判8枚分）ポスターにまとめて掲示しました。この中間発表は、下級生にとって卒業研究を進めて行く上での道標となるものです。4年生にとっては質疑応答をおして、研究の具体化や課題の明確化が進むことから、その深化が期待されます。

#### 3. 就職・進学・キャリア支援について

- 3・4年生全員に、その都度一斉メールで【求人速報】を配布しています。受験予定者に対する個別相談、履歴書・面接指導にも取り組んでいます。ご家庭でも是非関心を持っていただき、就職や進学の実現に向けて、慎重かつ適時適切な対応をお願いいたします。
- 小学校分野では、最後の模擬試験、集団面接、採用試験直前の専門・教職教養の演習等に取り組んでいます。富山県小学校教員採用試験7/18・19には、21名が受検の予定です。
- 幼保分野では、6/28、7/4・5の市町村保育士採用試験をはじめ、民間保育所の求人も寄せられていて、模擬試験や集団・個人模擬面接などの指導を行っています。福祉職場説明会や私立幼稚園適性検査への取り組みも始めています。
- 福祉職を希望する学生には、希望職種に応じて個別に指導しています。6月に富山県健康・福祉人材センターの求職者登録を済ませる予定で、7月から福祉職場説明会も始まります。
- 一般公務員・企業を希望する学生に対しては、希望職種に応じて専門のアドバイザーによる模擬面接の指導や就職情報、採用試験に向けた支援を行っています。
- 4月末現在、希望進路の状況（一部重複希望あり）は、小学校教諭23名、幼稚園教諭・保育所保育士30名、社会福祉関係11名、企業等16名などとなっています。

□ 学生生活最後の学年、悔いのない1年、そして豊かな人生につながる1年となりますよう、保護者の皆様方と一緒に努めて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(「卒業研究」4年生担当：原・本江)

## 保護者の皆様へ「学生の皆さんのお概況について」（第14報）

平成27年9月・子ども育成学部

平成27年度も後半を迎えます。8~9月の夏季休業中には、4年生は小学校・保育・福祉の公・私立就職試験や卒業研究、2・3年生は保育所・小学校・幼稚園実習を終え、休む間もなく後期授業が始まります。6月に続き、その後の学生の皆さんのお概況についてお知らせいたします。

### 1. 就職・進学・キャリア支援について

- 4年生では、小学校教員6名、保育士11名、福祉分野6名、公務員・企業8名の合格・内定・内々定が出ています（9月25日現在）。小学校教員は臨時講師への道、保育士は公立（富山・高岡・黒部）の2次試験や民間保育所採用試験、福祉は民間福祉・医療事業所採用試験や国家試験対策など、それぞれ最後の踏ん張りどころです。企業も含めて、ゼミ担任や各分野の担当教員にご相談下さい。
- 3年生は、「キャリア支援講座」を分野別に集中的に指導します。4年次の採用試験まであと半年余り。実習の成果を振り返りながら、専門・教養ともすぐに対策開始です。
- 2年生は、後期から専門職連携授業が多く開講されます。日々の授業、実習の事前事後学習への専心が重要です。就職準備の「教養試験対策講座」も全員受講を期待します。
- 1年生は、「キャリア入門講座」を開講します。①小学校教諭、②幼稚園教諭・保育士、③社会福祉士の進路選択について、ご家庭でも十分に話し合われますようお願いします。

### 2. 学習面について

- 前期（4~9月）の学業成績を同封しております。一部の学年や科目で、再試験対象者が目立ちました。成績不振のため実習を延期する（⇒資格免許が取りにくくなる）場合や卒業延期が見込まれる場合は、保護者の方とも個別相談をさせていただきます。日頃の学習の大切さについて、十分ご理解願います。なお、この間に、休学が23年度生1名、26年度生2名、27年度生1名、退学が25年度生1名ありました。
- 教員・保育士・社会福祉士など子ども育成の専門家への道は、容易ではありません。実習先・就職先など社会の注目と期待は、極めて強く厳しいものがあります。日頃から「学びの精神」をもって、授業・予習・復習・課題などに地道に取り組むことが、確かな就職につながります。生活リズムを崩す過度のアルバイトや活動などで、学生生活も将来も貧しくしてしまわないよう、ご家庭でも責任あるご指導をお願いします。

### 3. 進路・学習・生活面での相談支援について

- 相談支援の窓口には、①ゼミ担任、②科目担当教員、③実習担当教員、④キャリア支援窓口、⑤事務室、⑥健康管理センターなど多様な機関があります。また、⑦投書箱・メール相談、⑧学友会役員を通しての要望・相談なども可能です。
- 授業や実習等をめぐり、自分の適性や進路選択の悩みなど様々な思いが交錯する時期です。保護者の皆様には、現実的で適切な助言などご理解ご協力ををお願い申し上げます。

### 4. 第7回大学祭と保護者懇談会

- 10月17・18日開催の第7回大学祭のうち、17日の保護者懇談会では、就職などの説明を行います。大勢の保護者の皆様のご来校をお待ちしております。（学部長：辻井満雄）

## 1年生の概況について

「教養演習」(1年生)担当教員

大学生になって初めての夏休みも終わり、後期がいよいよ始まります。後期では、専門的な学習や実習が本格化しますので、気持ちを引き締めながら学習に望んでいきたいと思います。保護者の皆様には、これからも学習面、生活面にご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

### 1. 学習面・生活面について

- ・ 高校までとは違い、資格免許を取得するための履修科目を自分で選び、その授業内容を身に付けていくためには、授業の準備や自主的な学習等をすることが大切です。一部の学生の中には体調不良や寝不足等による遅刻や欠席がありました。自分でスケジュールを管理し、授業への集中や規則正しい生活習慣と生活リズムが身に付くようご家庭でも引き続きご指導をお願いいたします。また、アルバイト等に貴重な時間を過度に割いて、折角の大学で学ぶ意義が犠牲にならないよう、ご理解の程お願いいたします。
- ・ 卒業必修科目に「教養演習」という1・2年生合同で行う授業があります。

前期では、各ゼミ別に研究テーマを決め調査・探究活動を行い、7月に「ゼミ別活動合同発表会」で研究発表をしました。「Let's防犯対策～子どもを犯罪から守る～」「ケータイ社会の実情」等、社会で今起きていることについてのテーマや、「子どもにとっての絵本」や「子どもの遊びとその発達について」等、専門分野を意識したテーマなどのプレゼンテーションが行われました。大学祭(10/17~18)では、この発表の内容をもとにポスター展示を行いますので、是非ご来校いただき、ご覧くださいますようよろしくお願いいたします。

### 2. キャリア支援について

- ・ 小学校、幼稚園・保育所、社会福祉など各分野に向けた「キャリア入門講座」が後期から卒業必修科目の授業として始まり、計画的にキャリア形成ができるよう1年次から指導します。キャリア入門講座の中では、小学校教諭、保育者、社会福祉士の先輩方をお招きして、それぞれの現場の話を学生が直接聞く機会を設けます。専門職への理解を深めながら、資格免許取得への動機づけとなり、学習への意欲を高めることを目的としています。ご家庭でも、将来の方向性について、是非この時期から話題にしていただきたいと思います。

### 3. 専門的学習や実習に向けて

- ・ 11月から、「幼稚園教育実習Ⅰ」(卒業必修科目)が始まります。いよいよ卒業後の進路を見通した専門的な学習や実習が本格化します。社会人としての必要なマナーを身につけながら、専門職の素晴らしさや厳しさを体験する初めての機会です。
- ・ 日々の講義で多くの分野について幅広く学びながらも、自分の目指す道を決めていく時期です。これからも教職員一同、全力で教育・指導に努めてまいりますので保護者の皆様には、今後とも一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(担当：小林・相山)

## 2年生の概況について

「教養演習」（2年生）担当教員

夏季休業も終わり、後期の授業・活動に向けて学生たちはそれぞれ準備を始めています。保護者の皆様には、以下の点にご理解とご協力を下さいますようお願いいたします。

### 1. 授業・学習面について

- 8月末には、幼稚園教員・保育士・小学校教員の資格免許科目の体育の学外授業が、行われました。体育は、卒業必修科目にもなっており、陸上競技場や市民プールにおいて、2年生全員が幼児・児童の体育指導法について、自らの体験を通して学びました。
- 大学祭（10月17・18日）において、前期の教養演習で取り組んだ共同研究をポスター掲示で発表します。ゼミ毎に学生が主体的に調査研究を行った成果をまとめ、参観者に見やすくわかりやすく掲示することをねらいとして、準備を進めています。
- 授業を6回欠席しますと、期末試験の受験資格がなくなり、単位が取得できません。卒業や資格取得にもかかわる問題ですので、ご家庭でもご指導をお願いいたします。

### 2. 実習・キャリア支援について

- 実習の履修要件を満たさなければ、原則として実習に行けません。2年生の成績・態度は、3年生に影響しますので、学生にも注意を促しています。
- 保育士資格取得希望者は、9月に10日間の「保育所実習I」を終えました。今年度は自分から積極的に部分実習を申し出て取り組むなど、真摯な姿を見ることができました。後期に行われる保育士資格科目「施設実習I」についても、配属が決定しており、2班体制で行います（第1班：11/9～20、第2班：11/24～12/7）。実習に向けて、実習施設についての事前学習と自己課題の明確化、体調の管理が望されます。
- 小学校教諭一種免許状取得希望者は、6月から随時「介護等体験」（特別支援学校2日間・社会福祉施設等5日間）に出かけています。介護等体験の終了後には、報告会を開催し、体験の振り返りを行う予定です。また、来年9月・3年次の「小学校教育実習」に向けて、夏季休業中から自分の母校へ実習依頼に出向き、手続きを進めています。
- 3年次前期に行われる「幼稚園教育実習II」の履修希望調査が始まります。幼稚園教諭一種免許状の取得について、ゼミ担任や科目担当教員と相談しながら手続きを進めていきます。
- 「キャリア支援講座I」では、希望する分野に分かれて指導を行っています。小学校分野では、教員採用試験で過去に出題された問題を、保育分野では、実技や専門科目の学習を、社会福祉分野では、社会福祉が関わる様々な課題について考える機会をもっています。進路に悩んでいる学生も見られますので、ご家庭でのご支援をお願いいたします。

### 3. 授業外の活動・生活面について

- オープンキャンパス（7・8月）では、学友会の2年生が中心となって大学生活についての紹介を行うなど、様々な係を通して、多くの高校生と触れ合う機会となりました。
- 第7回大学祭に向けて、2年生を中心とした大学祭実行委員が、前期から準備を進めています。様々な困難を乗り越え、達成する力を養う機会となることが期待されます。
- 2年生は自家用車通学が多いため、交通事故防止のための注意喚起を行っております。ご家庭でも引き続きご指導をお願いいたします。

（担当：室林・石倉）

## 3年生の概況について

「卒業研究」(3年生) 担当教員

短くも充実した夏季休業が終わり、卒業まで1年半となりました。これからは、それぞれが思い描く将来像に向かって、具体的に舵を取る時期に入りました。3年生の最近の概況についてお伝えいたします。

### 1. 学外実習について

- 夏季休業期間中に、3週間（15日間）の「小学校教育実習」と「幼稚園教育実習Ⅱ」が行われました。実習指導教員やゼミ担任らも、実習先を訪問し、現場の先生方と意見交換を重ねてきました。小学校実習では、初めての授業に緊張する実習生が、子どもたちに指導することの難しさと責任の重さを体感するとともに、幼稚園実習では、秋の行事を準備するなかで、子どもたちの年齢に応じた見守りや援助の方法を学んできました。実習日誌には書ききれない学びを基に、今後は、自らの適性に合った進路先を決定し、大学生活後半を有意義に過ごせるよう支援してまいります。
- 社会福祉分野では、2~3月に「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」（25日間かつ180時間）が予定されています。寒い季節、長期間にわたる実習ですので、学生の皆さんには、気力体力を充実させて臨んでほしいと思います。

### 2. キャリア支援（就職・進学）について

- 3年生は、前期に引き続き、「キャリア支援講座Ⅱ」で小学校教諭、幼稚園教諭・保育士、社会福祉士、企業等の4講座の中から希望する講座を受講してもらいます。後期では、前期の内容をレベルアップして模擬面接や集団討論を適宜盛り込むなど、学生個々人のニーズに合わせたサポートを行います。
- 4年生への進級とともに各種資格・採用試験がスタートします。一人ひとりが「なりたい自分」になって卒業できるよう、教員も一丸となって取り組んでまいります。

### 3. 卒業研究について

- 4月から卒業研究ゼミに配属された3年生は、卒業研究とはなにか、教養演習での研究とはどこが違うのか、自分はどんなテーマを追究していくのか等を考えてきました。他大学と異なりたっぷり2年間かけて取り組む卒業研究の初年度では、これまでの自己の研究の歩みを点検し、卒業論文のテーマを明確にするとともに、文献・資料収集や調査の方法など、研究を積み上げる態勢を整えていきます。
- 4年次では、授業や6月の実習（保育所実習Ⅱ／施設実習Ⅱ）と並行して、採用試験の準備や就職活動に多くの時間が割かれます。そのぶん、卒業研究のための時間は少なくなりますので、今年度中に中間発表のポスターを完成させる勢いが必要です。3年生には、計画的に就職活動と卒論作成の両方に取り組むよう指導してまいります。
- 教育・保育・福祉の各分野で、現4年生の採用試験合格や就職活動の成果が次々聞こえてきます。成功をつかむには、明確な目標に向かって限りある時間を有効に使うことが大切です。自己の体調管理にも十分留意しましょう。保護者の皆様には、引き続き、学生の生活状況の把握、日々の励まし等をお願いいたします。 （担当：彼谷・大平）

## 4年生の概況について

### 「卒業研究」(4年生) 担当教員

卒業まで残り半年足らずとなりました。大学生活4年間の総まとめとしての4年次後期が、いよいよ始まります。4年生一人ひとりにとって、卒業後の進路に向けての総仕上げとなる大切な時期にあることへの自覚が求められます。最近の概況についてお伝えします。

#### 1. キャリア支援（就職・進学）について

- 富山県小学校教員採用試験には4年生6名（補欠1名含む）が合格し、他大学大学院の在学者や県内小学校講師の過年度生合格者5名と合わせた11名が来春から県内の小学校教員として教壇に立つ予定となります。さらに、県外の教員採用試験の合格発表待ちの4年生も数名おります。保育士・幼稚園教諭採用試験では、9月25日現在で、公立5名・民間6名がすでに内定を得ています。社会福祉関係では市町村職員採用試験や民間の社会福祉施設採用試験で、6名が内定しています。一般企業では8名が内定を得ています。
- 保育士・幼稚園教諭、社会福祉士採用では、求人が早くから出されています。学部では、キャリアセンターから求人情報について一斉メール速報で情報提供し、ゼミ担任が中心となり、教育・保育・福祉・企業等の各専門分野との連携をとりながらサポートしております。就職においては、後になればなるほど採用条件が厳しくなりますので、早めに応募することが重要となります。ご家庭でのお声かけをよろしくお願ひいたします。
- 後期には、社会福祉士国家試験受験者を対象に「キャリア支援講座Ⅲ」が開講されます。1月24日の国家試験に向けて、最終的な受験体制に入ります。当日の試験は、午前・午後合わせて試験時間が4時間に及ぶ非常に過酷な内容です。知力はもとより、体力と気力が不可欠となることから、体調管理も必要になります。保護者の皆さまの温かい励ましが大きな力になることと思います。引き続き、ご協力ををお願いいたします。
- 「富山に学ぶインターンシップ」では、教育・保育・福祉の様々な実践現場での就業体験となり、今後の進路選択や専門職のあり方について考える良い機会となります。
- 教員一同、学生一人ひとりの「なりたい自分になる」ためのサポートを行っています。保護者の皆様には、生活状況の把握、健康への留意、励まし等をお願いするとともに、ご質問やご相談につきましては、先ず、ゼミ担任へのご連絡をお願いいたします。

#### 2. 卒業研究について

- 卒業研究は、4年間の学習や活動の集大成であり、論文提出締め切りの1月上旬に向けて、一人ひとりが、教育・保育・福祉の各分野等を中心に、それぞれのテーマに向けて研究を進めています。5月の中間発表では、研究成果を1人当たりA4判8枚分のポスターにまとめて掲示し、10月の大学祭においても、再び4年生全員が卒研ポスターを掲示します。大学祭でご来学の際には、成長途上の汗の結晶をぜひご覧ください。
- 卒業研究発表会は、来年2月13日（土）に開催され、その前に、論文冊子および要旨集原稿を提出します。3年次に卒業研究を始めた頃は、発表会はまだ先の先でしたが、授業、実習、就活と忙しく過ごしているうちに、残り時間もわずかとなりました。
- 卒業研究は極めて創造的な作業です。将来の職業に関わらず、この体験は必ずいつか役に立つはずです。卒論の内容が夢に出てくる日もあるでしょうが、保護者の皆様には、健康状態を気遣いながら、温かく見守っていただきたいと存じます。（担当：原・本江）

## 9. 研究活動

### 1. 実績と現状

#### (1) 学部紀要の発行

- 『富山国際大学子ども育成学部紀要第7巻』寄稿16名17編（平成28年3月ウェブ公開）
- 室林孝嗣 「相談支援従事者育成のためのグループスーパービジョンの研究」
- 小林曜子 「絵の具での遊びにおける幼児と学生の感性に関する一考察—感性豊かな保育者を育成するために—」
- 石倉卓子・竹田好美 「幼保連携型認定こども園の実情と課題—子ども・子育て支援新制度のスタートにあたって」
- 水上義行 「新しい時代に対応できる教員養成の在り方—教員養成系大学の役割と責任」
- 大藪敏宏 「『共存・共生の精神』と大学創立への『火種』—教育と福祉のハイブリッドの基本哲学と『知性・教養・個性』」
- 大藪敏宏 「宮下鉄蔵のチューリップ哲学と佐藤信淵の農哲学—「産業」概念に関する比較哲学的研究」
- 大藪敏宏 「福祉の体系における『欲望』のフーコー的様相とボランティアの偶然性—ヘーゲル法哲学における「欲求の体系」の偶然性と文化経済学の考古学」
- 仲井文之 「山田孝雄博士が母に捧げた『誅詞』に関する一考察」
- 辻井満雄・松山友之 「小学校理科における学習課題についての一考察」
- 辻井満雄・松山友之 「子どもの自由な試行活動を中心とした初等理科教育—丸本喜一の理論と実践に関する研究」
- 彼谷 環 「『主権者教育』と『政治教育』に関する一考察」
- 福島美枝子 「『外国語活動』をめぐる小学校教員の課題意識」
- 宮田伸朗 「高岡の福祉を築いた先人達（2）」
- 吉田昌弘 「『道徳』授業とそれに応じた読み物教材・資料の特性把握の試み—教育方法と授業構成の歴史的分析に向けた予備的考察」
- 相山 馨 「認知症介護における介護者支援方法の検討」
- 堀江英一 「富山県の中学校校歌をつくった人たち—作詞者及び作曲者の観点から」
- 原 稔 「安価な望遠鏡とデジタルカメラを使用した教材用天体写真の撮影」

#### (2) 助成研究への取り組み

- ① 文部科学省学術研究助成基金（科学研究費補助金）

相山 馨 「介護者のケアマネジメントにおけるアセスメントツールの開発」

平成25～27年度

吉田 昌弘 「『教育』概念によって統合された法制度の形成過程についての歴史的研究」

平成25～27年度

村上 満 「保育ソーシャルワーカー導入に向けた養成支援システム構築に関する実証研究」 平成27～28年度

大平泰子 「青年期の双極性障害における自傷行為の機序に関する研究」

平成27～29年度

- 石倉卓子 「認定子ども園における遊びの質を保証する園庭評価基準（幼児版）の試案作成」 平成 27～29 年度
- ②（財）富山第一銀行奨学財団助成研究  
福島美枝子「富山における小学校英語の現状とこれから～録画授業の分析を通して」  
村上 満 「保育ソーシャルワーク教育課程設置に向けたカリキュラムおよび教材開発に関する研究」  
水上義行 「新しい時代に向けた教員養成の在り方－大学の役割と責任」  
室林孝嗣 「相談支援従事者育成のためのグループスーパービジョンの研究」
- ③（財）富山第一銀行奨学財団助成研究 研究発表会（平成 27 年 7 月 1 日）  
発表者 堀江英一（共同研究者：相山馨・本江理子）  
題目 『『地域社会参加活動』がもたらす教育的効果に関する研究』（平成 26 年度研究）

### （3）研究交流サロン

- 第 14 回研究交流サロン（平成 27 年 9 月 9 日）  
講演者 室林孝嗣准教授  
演題「社会福祉を iMindMap で」

### （4）フォーラム及び公開セミナーの開催とニュース・レター『子ども育成研究』の発行

- ①「子ども育成研究第 11 号」（平成 27 年 10 月発行）  
内容：第 7 回子ども育成フォーラム報告・キャンパスニュース・教員の研究活動  
②「子ども育成研究第 12 号」（平成 28 年 3 月発行）  
内容：第 7 回公開セミナー報告・キャンパスニュース（学生進路・資格取得状況）

### （5）「子ども育成学会」構想に基づく卒業生及び在校生の研究活動

- ① 今年度は富山県寄付講座が 4 回行われ、現職の小学校教諭、幼稚園教諭、スクールソーシャルワーカー、相談支援専門員、教育委員会関係者など外部の方達と共に、在校生や卒業生が多く参加し、研修を行なった。

第 1 回（11 月 21 日）

菊本圭一氏「ストレングスモデルに基づいたケアマネジメントの実践」（在校生 51 名参加）

第 2 回（12 月 5 日）

押谷由夫氏「道徳教育実践の要となる『特別の教科 道徳』への期待」

（在校生 29 名、小学校教育研究サークル 16 名参加）

第 3 回（1 月 9 日）

神長美津子氏「専門職としての保育者」（在校生 71 名参加）

第 4 回（2 月 14 日）

大久保秀俊氏「富山市における『チーム学校』体制について～せんせいを目指すみなさんへ」

小川正人氏「教育の貧困問題と『チーム学校構想』～学校教育から教育と福祉の連携・協働を考える」（在校生 76 名参加）

- ② 平成 28 年 2 月 13 日、子ども育成学部第 5 回卒業研究発表会が開催され、総勢 80 名の 4 年生が小学校教育、保育、社会福祉、総合という四つの会場に分かれ、学生生活における学びの集大成として取り組んだ卒業研究の成果を発表した。1 年後に発表が迫った 3 年生も全員参加し、熱心に発表に耳を傾け、質問や感想の発表を活発に行った。

- ③ 富山国際大学子ども育成学会設立のために、各分野において在校生のサークル活動を充実させているところである。平成 27 年度の「保育サークルにこにこ」は、「にながわ保育サポー

ター」、「しばふプロジェクト」、「富山市立老田保育所夏祭り」、「堀川幼稚園お泊り保育」、「射水市立塙原保育園土曜保育」などのボランティア活動を行った。今後も保育現場での実践的な学びの場を増やしていくと共に、このサークルを立ち上げた既卒の3期生やそれ以前の卒業生との交流を促すことが課題となっている。「小学校教育研究サークル」は毎年、現職教員にも関心の高いテーマを選んで著名人の講演会を開催し、研修を続けている。今年度は、前述の富山県寄付講義で道徳教育実践について学ぶと共に、現職の小学校教員や教育委員会関係者や教育センター関係者をお招きし、学生達がこの講演会の運営に当たった。小学校教諭となった卒業生の研究発表の場ともなっている。

## 2. 課題

### (1) 紀要の発行

平成27年度は、学部教員15名、外部共同執筆者1名、計16名17編の投稿があり、26年度より大幅に增加了。昨年と同様3月初旬までに原稿提出、その後紀要委員会によって提出原稿の査読が行われた。今後も活発な投稿が望まれる。

### (2) 研究助成の競争的資金獲得への取り組み

#### ① 文部科学省学術研究助成基金（科学研究費補助金）

平成27年度は子ども育成学部で3件の新規採択があり、既採択のものを加えて5件の研究が実施された。今後も積極的な応募によって多くの研究が行われることを期待したい。

#### ② (財)富山第一銀行奨学財団助成研究

今年度の研究担当者の一部は学部の紀要に投稿して成果を公表した。今後も公表の方向で進めることが望ましい。

### (3) 研究交流サロン

平成27年度の第14回サロンでは、室林准教授から、トニー・ブザンが1970年代に提唱した思考・発想法の一つである「マインドマップ」とその表示・作成のためのソフトウェアiMindMapの紹介があり、これを使った社会福祉の対象把握や構造化等について学んだ。教員が皆多忙であるため当初の予定であった2回の開催は実現しなかったが、第14回サロンも新鮮な学びをもたらす貴重な研究交流の場となった。今後も1~2回の頻度で開催の継続が望まれる。

### (4) 子ども育成フォーラム 及び 公開セミナー

学部開設当初から行なわれているこれらの事業は、子ども育成に関わる県内の諸機関から広く多くの方達に参加していただけることを期待し、地域への貢献や地域との連携を目指すものであり、テーマや実施日の選定が常に大きな課題になっている。平成27年度の特筆事項として、公開セミナーの参加者が多かった。県内全域で、特別な配慮をする子ども達の問題に対する関心が大きいことが覗えた。

### (5) 「子ども育成学会」の構想に基づく卒業生及び在校生の活動

保育サークルの学外研修（ボランティア活動）と小学校教育研究サークル及び小学校教育研究会の研究活動が活発に続けられている。これらのサークルの卒業生は保育士や教諭になって間もないため、今後徐々に、現職として研究発表等を求められる機会が増えていくだろう。

平成27年度は、前述の富山県寄付講義が実施され、保育・幼児教育、小学校教育、社会福祉の3分野でそれぞれに在校生及び卒業生が学外の方達と共に研修する新たな場が提供された。「子ども育成学会」構想の中の分科会へと繋がるような新機軸であった。

## 10. その他

### 1. 実績と現状

#### (1) 子ども育成学部学位記授与式

- ・第4期生80名卒業：平成28年3月18日(金)10:00～、富山国際会議場3階ホール

#### (2) E館エレベーター前ホール遮光ロールカーテン設置（アクションプラン事業）

- ・2.3.6.7階にロールカーテン設置工事を実施（平成27年6月～7月）

#### (3) E館北側駐車場の融雪配管埋設（アクションプラン事業）

- ・北側駐車場の融雪配管埋設工事を実施（平成28年3月16日～24日）

#### (4) 一部研究室（大学教員）への外線ダイヤルイン化（アクションプラン事業）

- ・大学教員研究室（10室）へのダイヤルイン化工事を実施（平成28年3月26日）

#### (5) E館東南東角及び西南角側グラウンドフェンスに照明器具設置

（呉羽キャンパス整備検討委員会施設整備部会事業）

- ・外灯設置工事を実施（平成28年3月19日～22日）

#### (6) 平成27年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業「タイプ1」（教育の質的転換）

採択 ※次ページ参照

- ・交付額5,189千円 子ども育成学部には、E406講義室のAV系機器一式（天吊液晶プロジェクター、電子黒板2台、電動スクリーン、リモートカメラ、無線LANアクセスポイント3台、パソコン等）納入

【平成26年度は、積み木（スポンジ56組・材木74組）、遊具器具、音響機器1セット、ハンディカム3台、実物投影機・ブルーレイプレーヤー・ラック（8セット）】

【平成25年度は、テーブル8台・椅子24脚、キャレルデスク20台、自習用ブルーレイプレーヤー・モニター（10セット）】

#### (5) ホームページ掲載

- ・子ども育成学部ブログ（H27.4～28.3.23）

内訳：ニュース68件・イベント7件

（H26年度：ニュース82件・イベント7件）

### 2. 課題

#### (1) 教具・備品、施設・設備等の故障・修繕の増加

#### (2) 学生数増加に伴う教室不足とその対応

#### (3) 呉羽キャンパス各機関との各種調整（時間割、施設使用、行事日程等）

※私立大学等教育研究活性化設備整備事業「タイプ1」

品名	数量	年度	タイプ
クリッカー	200	ユーザー	25
ノートパソコン	3	台	25
キャレルデスク	20	台	25
キャンパスチェア	20	台	25
ブルーレイディスク	10	台	25
ディスプレイ	10	台	25
ヘッドホン	10	台	25
書画カメラ	8	台	26
HDD 搭載 BD レコーダー	8	台	26
クラスルームワゴン	8	台	26
箱積木(大)74個組	1	式	26
ソフトフォーミング 56個組	1	式	26
ゲームボックスアクティブセット	1	式	26
ゲームボックスセット	1	式	26
ハイレゾリューション対応オーディオスピーカー	1	台	26
マルチオーディオプレーヤーシステム	1	式	26
リニアPCM レコーダー	1	台	26
ビデオカメラ	3	台	26
リモコン三脚	3	台	26
天吊液晶プロジェクター	1	台	27
65型可搬式電子黒板	2	台	27
80型電動スクリーン	1	台	27
リモートカメラ	2	台	27
カメラコントローラーシステム	1	台	27
近距離無線 LAN アクセスポイント	3	台	27
講義者用高性能パソコン	1	台	27
SDI スイッチャー	1	台	27
HDMI 入出力変換器	1	台	27
SDI 変換器	1	台	27

## 11. 将来構想

### 1. 実績と現状

#### (1) 子ども育成学部アクションプランの策定

- ① 全学のアクションプラン（H26～28）に対応した取り組み

平成 25 年度末に全学のアクションプランが策定され、子ども育成学部においても、策定に向けた検討を行った。具体的な活動計画（3カ年計画）については、平成 26 年度当初に策定し、全学のプランに組み込まれた。

- ② 子ども育成学部の各部署の新規・重点事項の設定

アクションプランに呼応しつつ、学部内の各部署の新規・重点事項の設定について検討した。平成 26 年 4 月に、「平成 26 年度 各委員会の事業計画（主な所管事項、重点・新規事項）」（[参考 3] を参照）を策定したものに基づいて、実施に向けて取り組んだ。

#### (2) 「子ども育成学部第 2 期運営計画（中間まとめ）」とアクションプラン等の整合性

子ども育成学部では、平成 24 年 8 月に「第 2 期運営計画（中間まとめ）」を策定し、平成 24 年度から平成 26 年度にかけて、その実現に向けて改革に取り組んできた。平成 27 年度は新教育課程の実施に取り組んだ。

- ① 平成 27 年度新教育課程の実施

平成 26 年度の改革された新教育課程による授業に取り組み、充実を目指した。

- ② 教員組織の再編成

平成 26 年度と同じ人員で実施した。

- ③ 学生支援の充実

学友会・サークル活動・同窓会活動など学生支援を強化してきたが、同窓会子ども育成学部支部は結成されたばかりであり、特段の支援強化が必要である。

- ④ キャリア支援の充実・体系化

平成 26 年度新課程から正規科目として実施した。平成 26 年度必修科目「キャリア入門講座」、平成 27 年度選択科目「キャリア支援講座 I」

- ⑤ 研究・交流事業（子ども育成研究交流センター）の強化

学内学会設立への動きは、依然小学校分野にとどまっており、保育分野、福祉分野での設立に向けた支援強化が必要である。

- ⑥ 実習環境の整備

実習事務担当者の配置は未達成である。実習協力園の確保については、「幼稚園教育実習 I」の学外実習協力園の開拓・連携協力が進んだが、民営化保育園の受け入れについても、未達成である。

### 2. 課題

#### (1) アクションプラン等の実施と PDCA サイクル化

アクションプラン（全学・学部）と、それとの関連で学部各部門の行動計画や新規・重

点的に取り組む事項についても、確実に実施して、PDCA サイクル化していかなければならない。

## (2) 学園創立 50 周年以降の中長期的構想

本学園は、昭和 38 年に地域密着型の学園（旧. 学校法人富山女子短期大学）として設立された。創立 50 周年の平成 25 年以降の経営戦略・計画は、現在のところ不透明である。

北陸新幹線の開通に伴い、北信越・関東地区の諸大学との競争激化も見込まれる中で、富山短大の発展型として呉羽キャンパスに開設した子ども育成学部の将来を確かなものにするためにも、学園の中長期的な構想を積極的に検討していかなければならない。

## (3) 子ども育成学部の中長期的構想

平成 27 年度の委員会体制として、新たに「学部将来構想検討チーム」を設置した。将来計画に向けて、「将来計画検討会議」を 10 回開催し、将来に向けての「中間まとめ」として発表した。現代社会学部でも将来計画が検討されたが、学部内の構想にとどまっており、全学的な規模での検討の必要性を感じた。

今後、「中間まとめ」が学園全体の構想策定に向けた刺激剤となることも必要である。

### 〔参考 1〕『富山国際学園 50 年史』に記された「子ども育成学部の未来像」

平成 26 年 3 月発行の「富山国際学園 50 年史」の中で、宮田伸朗子ども育成学部長は、以下のとおり「子ども育成学部の未来像」について記述している。

子ども育成学部の教育理念・目標は、人口減少時代における健全な次世代の担い手を育成する、資質の高い教育・保育・福祉の専門家を養成することにある。地域における社会的使命達成のための課題は多い。

中長期的課題としては、①中学・高校・特別支援学校教員、心理・精神保健福祉人材などの養成課程開設、②教育課程の一体化を軸とする高大接続、保育・介護系人材養成学科との連携・接続など学園内の一貫教育システムの構築、③いじめ・学力向上、子育て支援など地域課題の解決のための県内自治体との共同研究や協働の推進などがイメージされる。

### 〔参考 2〕「平成 27 年度予算要求書（1. 子ども育成学部の概要）」に記された「将来展望」

子ども育成学部では、例年の予算要求書の冒頭に「子ども育成学部の概要」を提示し、その中で「将来展望」を記載している。平成 27 年度予算要求書では、以下のとおりである。

○子ども育成に関する社会的要請に応えうる学部の将来構想について検討する。

(例)

- ・中学/高校教員免許課程、4 年制保育教諭課程(仮称)、心理・精神保健分野の開設など
- ・複数資格履修コースの整備、学部定員増など
- ・中長期の課題（特別支援教員免許、高度な専門職教育など）についての研究

[参考3]「平成26年度 各委員会の事業計画（主な所管事項、重点・新規事項）」

3. 平成26年度 各委員会の事業計画（主な所管事項、重点・新規事項）（案） 平成26年4月30日(水) 学部連絡調整会議・資料

学部委員会	主な所管事項	平成26年度 重点・新規事項
学部運営委員会	学部運営に関する全般的な事項についての企画・連絡調整	・定期開催による機能強化
ゼミ担任	学生の教育・生活指導、保護者連絡	・学生数増に対応したきめ細かな指導
適応支援チーム	不適応学生の対応支援	・迅速かつ効率的な機能強化
入試対策委員会	入試運営、広報、学生募集	・特別要学生入試の拡充（「市町村連携型」新設・「成績優秀者」増）
学務委員会		
教務部会	教育課程の運営、学則改正、単位認定、進級・卒業判定、全学委員会との連絡調整	
教養演習WG・卒業研究WG	ゼミの連絡調整、研究発表会	・自校教育(初年次教育の実施)・「卒業研究の手引き」作成検討
資格免許養成課程委員会	教育課程の運営、非常勤講師連絡調整、実習指導部会の運営	
教養科目教育課程委員会	教養科目	・新設科目の円滑な実施
保育者養成課程委員会	保育士資格・幼稚園教諭免許	・文科省現地調査への対応・保育士・幼稚園教諭特例制度講座開設の検討
小学校教職課程委員会	小学校教諭免許・(スクールSW資格)	・文科省現地調査への対応
社会福祉士養成課程委員会	社会福祉士資格・(スクールSW資格)	・(仮)「社会福祉研究会」の立ち上げ
実習指導センター	実習の企画運営・実習生指導・実習施設他校との連絡調整	・実習履修要件の厳格化(GPA活用等)
幼稚園教育実習部会	幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱ、自主研修	・幼稚園教育実習Ⅰの充実(みどり野30・その他学外実習園確保)
保育所育児部会	保育児実習Ⅰ・Ⅱ、自主研修	・自主研修の推奨
施設実習部会	施設実習Ⅰ・Ⅱ、自主研修	・実習施設確保の準備(次年度2年生101名)
小学校教育実習部会	小学校教育実習、自主研修	・市町村教委との連携強化
介護等体験部会	介護等体験	・実習指導の充実(「手引き」作成検討・提出物の徹底等)
相談援助実習部会	相談援助実習Ⅰ・Ⅱ、自主研修	・実習施設の拡大・確保
富山に学ぶインターンシップ部会	インターンシップ	・実習指導の強化
学生支援部会	学生生活支援、学生の権利厚生	
学生支援チーム	学友会・大学祭・サークル支援	・吹奏楽団・合唱団立ち上げ、学生ボランティアセンター立ち上げ準備
キャンパス環境整備チーム	キャンパス環境整備	・6箇ラウンジ学習環境整備
卒業生支援チーム	同窓会支援	・(仮)「保育研究会」・「社会福祉研究会」の立ち上げ
(学部)キャリア支援委員会	キャリア講座、就職・進学指導	・1年次正課「キャリア入門講座」開始・行政職希望者対策の検討
(学部)子ども育成研究交流センター	公開講座(フォーラム・セミナー・教員免許更新講習・三大学連携講座)等	・保育士・幼稚園教諭特例制度講座開設の検討
	調査研究(実践研究交流、研究サロン等)	・子ども育成学プロジェクト
(学部)図書館・紀要委員会	図書購入、紀要編集	・研究倫理の徹底・図書館ニュース(大学図書館)の取り寄せ配布
(学部)広報・情報委員会	ブログ・配布物など作成・発信	・ホームページの見直し・ブログアップ数の増(年間70件)
(学部)自己点検・評価委員会	自己点検評価	・平成29年度認証評価への準備
関係団体担当との連携担当	関係団体との連絡調整	・市町村教委との連携強化